

2019年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業計画

(2019. 4. 1～2020. 3. 31)

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また、これまで蓄積してきた情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設運営を通じて県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

2019年度は、県および甲賀市からの指定管理第3期（5年間）の4年目となる。昨今の環境や社会経済の変貌により、陶芸の森に求められる県民や地域の期待はますます大きいことから、継続して、国際的な情報発信、魅力的な事業展開による誘客の推進、地域産業の振興および地域の活性化、ならびに次世代育成の充実・強化を重点に取り組む。具体的には、陶芸の森の特性を活かし、当館で滞在制作されたアーティストたちの取組、北大路魯山人を軸とした古典復興の視点、リサ・ラーソンの回顧展による世界の陶芸を紹介する展覧会の企画、文化庁の補助事業等を活用した陶芸家の相互派遣を含む国内外のレジデンス機関との連携、陶芸家と産地との交流を図る。産業振興面では、当館館長との対話によるトークショーの開催やミュージアムショップでの販売を想定したデザインコンペの実施等による人材育成と商品開発の支援、さらに信楽窯業技術試験場と協力・連携した信楽陶器産業の振興支援策について検討を進める。また、信楽を舞台とした女性陶芸家を主人公に描かれるNHK連続テレビ小説「スカーレット」の決定に際し、信楽焼を代表する女性陶芸家の作品や薪窯について紹介し、観光に訪れた方とともに信楽焼や信楽地域の魅力をより多くの方々に知っていただく事業を行い、陶芸の森への誘客、さらには陶器産業の発展につなげていく。

さらに、陶芸の森が開設30周年を迎える2020年度に向けて、県および甲賀市と連携して、日本遺産に登録された六古窯に焦点を当てた展覧会や世界へ発信できる参加型のイベント等、発信力のある事業構成についても具体的に検討を行う。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理をおこない、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

(1) 陶芸作品の野外展示

陶芸の森という施設の名にふさわしく、滞在した陶芸家の創作作品を野外設置し、いわば野外美術館として、自然の中で広く県民が芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

(2) 窯の広場

現在、穴窯をはじめとする薪窯が7基点在している。多くの種類の窯を持つことでつくり手である陶芸家のモチベーションをあげ、また、来園者には活きた薪窯を見てもらえることで、陶芸の森らしい園内散策のポイントとする。

(3) 花咲く公園

来園者に楽しんでもらうために、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を歩道沿いに設置して火鉢ロードと命名し、植木鉢とし活用している。そこに植栽したハーブや草花、また園内の花木を適切に管理し、枯れたサクラの更新を行う。その他、紹介看板等を必要に応じて更新していく。

(4) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらう。

(5) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施する。

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

信楽焼を抱える滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森は、いかに地域資源を活かしながりピーターをつくっていくかが課題のひとつである。

集客促進のひとつとして、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種講座や陶器市、様々な一般参加型のイベントを開催・誘致し、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創っていく。また、びわこビジターズビューローや観光協会等と連携し、陶芸の森を含めた信楽の地域資源を活かした観光ルート等の作成を検討する。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げる。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

ア. 実技講座シリーズ

やきものについて、広く学ぶことができる実技講座を開催する。内容については、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催する。

①陶芸館特別企画関連事業

積層彩磁技法で花のうつわをつくる【新規】

出展作家の高間智子氏の指導の下、色土を重ねた素地の表面を彫ることで模様を作り出す「積層彩磁」の技法で花のうつわをつくる。

<開催日>2019年5月26日(日)

<講師>高間 智子

②陶芸館特別企画関連事業

象嵌技法で花のうつわをつくる【新規】

出展作家の谷野先生の指導の下、うつわを制作し、象嵌技法でうつわの表面を花で彩る

<開催日>2019年5月19日(日)

<講師>谷野 明夫

③ミニ窯をつくろう！

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくる。後日窯で素焼して、炭を燃料にした焼成をおこない、窯の仕組みの理解と焼成を体験してもらう。

<開催日>2020年3月15日(日)

<講師>越沼 信介

④ラク焼講座

粘土3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得をめざす。

<開催日>2019年10月5日(土)

<講師>奥田 英山

⑤ラク焼上級講座

粘土 3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得をめざす。また、後日焼成した茶碗を持参し茶会をおこなう。

<開催日>：2020年3月22日（日）

<講師>奥田 英山

⑥練り込み技法でうつわをつくろう！

練り込みの技法で皿や鉢などのうつわをつくる。

<開催日>2019年5月12日（日）

<講師>村田 彩

⑦野焼き講座

5キロの粘土を使用し、壺などを制作、野焼きまでを体験する。制作、磨き、野焼きの3工程を通じて野焼きの面白さを探る。

<開催日>成形：2019年6月23日（日）

磨き、仕上げ：6月29日（土）

野焼き：7月6日（土）

<講師>細川 政己

イ. 穴窯体験講座の開催

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて知識と技術の普及と公開を図る。

初級、中級、上級講座と、各クラスに分けて募集する。初級については、初心者の方を中心にわかりやすい作り方の指導をおこない、信楽焼に対する関心、理解を深める。中級は、一步踏み込んでより高度な技術の習得をめざし花瓶などを制作する。また、上級講座では、大壺などを制作し、高度な技術の習得をめざす。

<開催日>初級：2019年10月27日（日）、12月1日（日）

中級：11月24日（日）

上級：11月9日（土）、10日（日）

焼成日程：12月中旬

ウ. 穴窯焼成クラスの開催

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、一定量の粘土を渡し各々が作品づくりをおこなうだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得もめざす。穴窯講座のリピーターの受け皿として機能させていく。

<開催日>説明会：2019年9月28日

焼成日程：3月下旬

エ. 登り窯講座

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、従来から穴窯を積極的に活用してきたが、信楽町内在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯（火袋、一の間）で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図る。

講座は、初級、中級、上級講座に分けて募集する。初級は初心者向けに中級についてはわかりやすい作り方の指導をし、信楽焼、登り窯焼成に対する関心、理解を深めてもらう。上級は、一步踏み込んでより高度な技術や大物の制作技術の習得をめざす。

<開催日>初級：2019年8月25日（日）

中級：9月8日（日）、

上級：9月28日（土）、29日（日）

焼成日程：11月下旬

オ. 登り窯 グループ参加の部

参加者をグループで募り、広く業界や県内の陶芸関係者、陶芸教室等に呼びかけて作品を集め

登り窯にて焼成し、薪窯による釉薬作品焼成の技術の保存と普及を行う。焼成は参加者に担当してもらおう。

カ. 団体受付「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

<開催日>2019年6月の週末(金・土・日)の3日間

<参加者>通信学部3年次生 25名~30名

<内容>手びねりによる、30~40cm程度の花瓶などの制作及び町内見学

(2) イベントの開催・誘致

陶芸の森が持つ広大な芝生の広場を軽スポーツ、野外ライブ、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。特に春の連休には、地域グループの主催による陶器市を開催する。

ア. 第13回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

信楽町内の陶芸家を中心に組織している信楽作家市実行委員会と協力し、5月の連休に「作家による手づくりの作品」を販売するイベントとして開催する。

<開催日>5月2日(木)~5日(日・祝)

<主催>信楽作家市実行委員会

<協力>公益財団法人滋賀県陶芸の森

イ. 第24回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として開催する。

<開催日>10月12日(土)~14日(月・祝)

ウ. 野外音楽イベント「SIVEL WARS」の誘致

集客力が低下する8月に若年層をターゲットとした地元有志の主催によるイベントを誘致する。

<開催日>8月11日(日)

<主催>SIVEL WARS 実行委員会

エ. わくわくウォーキング in 陶芸の森

陶芸の森園内および周辺散策路を利用し、ウォーキングを通して陶芸の森の豊かな自然を満喫してもらおう。園内に設置された野外作品の鑑賞やニュースポーツ体験を実施することにより、幅広い年齢層が楽しめる企画として開催する。

<開催日>12月8日(日)

オ. 陶芸の森開設30周年企画フォトコンテストの準備(仮)

2020年度に陶芸の森が開設30周年を迎えることを記念し、これまで実施してきた陶芸の森フォトコンテストのノウハウを活かしつつ、地域と連携した事業展開を図る。2019年度は、2020年度に記念事業として応募作品の展示等を実施することを目的に、信楽町観光協会や信楽高原鉄道といった町内団体との連携を図り、テーマの選定や実施要領の検討を進め、一般募集を行う。

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストやゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努める。

(4) 観光および集客促進のための広報活動

滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために各種メディアへ積極的にパブリシティを行うとともに、(公社)びわこビジターズビューロー等と連携し、団体客の誘致にむけた積極的なPRに努める。

(5) 地域拠点活用事業

25周年記念事業を機にまちなかギャラリーとして改修を行ったFUJIKI（旧藤喜陶苑）を、地域拠点として活用する。管理運営を地域団体の若手有志を中心に陶芸の森が委嘱した委員で構成する「FUJIKI 運営委員会」に委託し、陶芸の森も主体的に参画することで、地域に根差した管理運営を実施する。陶芸の森サテライトギャラリーとしてレジデンスアーティストの展覧会を行うほか、運営委員会を通じ一般へのスペース貸出を行い、地域の活性化を図る。

(6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図る。

(7) レストランへの施設貸与

甲賀市の許可を得た業者に信楽産業展示館内の一室をレストランとして貸与し、来園者へのサービス向上と陶芸の森への集客を図る。

(8) 信楽ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図る。

3. 施設の管理

地域の産業、文化および観光の拠点施設としての機能と、来園者にやすらぎを感じてもらえる施設として良好な状態を維持し、一層利用が図られるよう、日々巡回しながら適切な維持管理に努め、また各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に努める。

4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動を行う中で、ご支援をいただけるよう周知活動を行う。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

これまで陶芸館では、個性豊かなコレクションを核にして時代の動きをいち早く捉え、新しい視点を交えながら、やきもの文化の幅広い魅力をアピールしてきた。

今年度の展覧会開催事業では、従来からの「やきものファン」へ併せて、新しい若者世代にも広がる幅広いファン層に応えるよう、陶芸の森の多彩な特性を發揮する陶芸専門美術館として、国内外のやきものに様々な時代や角度から焦点をあてた企画を展開していく。国内外の若手作家を擁する当館のアーティスト・イン・レジデンスの作家たちの展覧会から現在の陶芸シーンを展示する。そして日本のやきものからは、食とやきものつながりを明確に示した北大路魯山人を軸に昭和時代の陶芸「古典復興」の視点から紹介する。また世界の陶芸からスウェーデンのリサ・ラーソンの回顧展では、彼女が影響を受けた世界各地のキーパーソンとのつながりにフォーカスする一方で、若い世代へのファン層の獲得を目指す。

また、来園者の少ない冬季（12月中旬～3月上旬）には陶芸館を休館。調査研究・普及啓発活動をはじめ、収蔵品のデータ整理とコンディションチェック、また展示什器類のメンテナンスを行う。

(1) ①特別企画「陶の花 FLOWERS」展

②細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展（同時開催）

＜開催期間＞2019年4月2日（火）～6月9日（日）（59日間）（平成30年度からの継続）

①花は、古来より様々な芸術のジャンルにおいて表現されてきた。それはやきものにおいても例外ではなく、東洋陶磁においては華やかな花を意匠化した伝統文様が器をいろどる。その多くが幸せを願う吉祥文様である。また現代陶芸においても、強い生命力、美しさ、儂さ、清々しさを漂わせる花をテーマに制作する作家は多く、それぞれの思いをもって表現をおこなっている。本展では、「花」を入りに、様々な時代の陶による表現の世界をさぐる。

②細川正廣コレクションは、大津市在住の細川正廣氏が「滋賀の地で生み出されたやきものの歴史と素晴らしさを後世にまで伝えたい」という思いから滋賀県立陶芸の森に寄贈された滋賀ゆかりの古陶磁コレクションである。平成19年度より続けてご寄贈をいただき、平成29年度には100点を数えるまでになった。本展はこれを記念し、コレクションの中から約50点を選び紹介する。

（2）特別企画 交流と実験 — 新時代の〈やきもの〉をめざして—

＜開催期間＞2019年6月18日（火）～9月6日（金）（70日間）

滋賀県立陶芸の森は美術館と滞在型スタジオをもつ、全国でも稀な「やきもの」を専門とした文化施設である。1992年の開設以来、国際文化交流の拠点として、52カ国1200人以上のアーティストが創作活動を繰り広げてきた。その取り組みは広く国内外で認知されるとともに、産地信楽の動向と関わりながら、新たな文化の創造に寄与している。

陶芸の森ではこうした国際性豊かな実績を活かして、情報化とグローバル化の急速な進展に対応すべく、近年は海外のレジデンス機関との連携強化に努めている。とくに、国際的なネットワークを活用した、交換プログラムの導入は、時代を見据えた取り組みといえる。海外での制作経験と、交流の機会を求めるアーティストを支援している。

海外での体験を通して彼らは、何に興味や関心をもち、どのような成果を得てきたのか。本展では、その活動の足跡を作品と彼らの言葉、そして画像や映像を介して紹介。現代の“やきもの”をめぐる多様な動向を捉えながら、これからの展望を模索する。

（3）特別展「北大路魯山人 古典復興—現代陶芸をひらく」

＜開催期間＞2019年9月14日（土）～12月1日（日）（68日間）

京都に生れた北大路魯山人（1883-1959）は、書や篆刻の分野で活動を始め、30代終わりの1922（大正11）年に生来の食に対する関心から「料理の着物」としての作陶に向かう。それは単なる食器づくりではなかった。彼は中世以来日本文化の核となっていた茶道を基軸とするわが国の伝統に触れ、一挙に陶芸の古典復興を代表する存在となった。その活動はまさに『美』を食す人」と形容できるものである。かつて中国大陸や朝鮮半島からもたらされ日本人によって守り伝えられたやきもの、日本で生み出された素朴なやきものからあざやかな色絵まで、長い年月をかけてこの国に積み重ねられたやきものさまざまな美をすくい上げた魯山人の制作はともすれば生前から好悪さまざまな評価にさらされたが、絶えず同時代の陶芸家たちを触発した。生涯にわたって世に送り出したやきものは約20万点以上と推測されている。

本展では魯山人（1883-1959）を中心に現代陶芸の礎となった昭和時代を展望する。魯山人を中心に川喜田半泥子、石黒宗麿、荒川豊蔵から八木一夫にいたる同時代の陶芸家たちの作品に加え、彼らが学んだ中国、朝鮮、日本の古陶磁もあわせて展示し、昭和陶芸の豊穡な成果とその源流から未来を見つめる。

※当館以外の巡回先

碧南市藤井達吉現代美術館 2019年4月27日（土）～6月9日（日）

(4) 特別展「リサ・ラーソン」

＜開催期間＞ 2020年3月21日(土)～5月31日(日) 62日間(2020年度への継続)

北欧の陶芸デザインで魅力的な動物作品で幅広い人気を得ている、リサ・ラーソン。日本での第三弾となる回顧展では、スウェーデンで初のリサ・ラーソン展を開催した Rian Design Museum の館長 Love Jönsson 氏が企画を担当し、彼女のデザインの源である世界各地を旅しインスピレーションを受けたアメリカ前衛陶芸のパイオニアであるピーター・ヴォーコスや日本の濱田庄司、メキシコやアジアの民族芸術などを、組み合わせで紹介する。本展覧会では、リサが制作のエネルギーとしたさまざまな人々との出会いを、彼女の作品から読み解きながら、リサ・ラーソンの芸術に迫る。

(後援) スウェーデン大使館(予定)

(企画協力) アートインプレッション

(5) 「うつわドラマチック」展の他館への巡回

＜概要＞

「うつわドラマチック」展は、当館コレクションをベースに他館からの借用作品を追加し構成した展覧会で、平成28～29年において、当館で開催している。2018年度は、岩手県立美術館へ巡回した。2019年度は、福井県陶芸館へ巡回開催する。

＜巡回先および会期＞

福井県陶芸館(福井県越前町) 2019年10月～12月

(6) 陶磁ネットワーク会議への参加

平成20年度に結成された県立8館の陶芸専門美術館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館同士の交流や情報交換を進め、共同企画展の開催、共同研究、共同広報、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的とする。

2019年度は、岐阜県現代陶芸美術館を幹事として開催予定の本会議への出席を予定している。

(7) 収蔵品収集(管理)事業

陶芸館では収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館学芸員らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を毎年開催し、候補作品について審議している。また、価格評価に関しては、外部の有識者で構成する収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

そのほか、台帳の整備や危機管理への対策も計画的に実施し、作品に関する記録保存、盗難および地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、収蔵作品の管理と活用、保全に必要な種々の業務を実施している。今後も継続して収蔵品(収蔵庫)の点検整理作業を実施し、作品の有効活用と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備を進める。

(8) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる無料で入館できる展示スペースとしてさまざまな展示を行っている。これまで、特別展、特別企画の関連展示や夏休み子ども企画展など、陶芸の森を理解していただく情報発信の場として活用している。今年度も、新収蔵品展などの企画など、陶芸の森の独自性を示す場として活用する。

ア. 「陶芸館・新収蔵の逸品展」

＜開催期間＞2019年3月12日(火)～4月14日(日) 30年度より継続

「日本の現代陶芸」「海外の現代陶芸」「滋賀ゆかりの陶芸」「クラフトと陶磁器デザイン」という収集方針の柱のもとに、陶芸館が平成 29、30 年度に新たに収集した作品の中から、代表的作品約 20 点を初公開する。

イ. 大石早矢香「Binary」

＜開催期間＞2019年4月20日（土）～6月9日（日）

平成30年度に創作研修館に滞在制作したゲスト・アーティスト大石早矢香による成果展。本展では大石早矢香が滞在中に制作した作品の展示を行い、アーティスト・イン・レジデンス事業の普及活動に努める。

ウ. 特別企画「交流と実験」—新時代のくやきもの>をめざして（第二会場）

＜開催期間＞2019年6月18日（火）～7月7日（日）

特別企画の第二会場として、平成 29 年度から 30 年度に渡り創作研修館に滞在制作したゲスト・アーティスト田中哲也による成果展。創作研修館並びに、交換プログラムで派遣されたサンデーモーニング@EKWC（オランダ）で制作した作品に近作を加えて展示する。

エ. 「子どもたちの土の造形—本物との出会いから展」

＜開催期間＞2019年7月13日（土）～8月25日（日）

小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信する。

オ. 「Shigaraki × Photography vo. 2」

＜開催期間＞2020年3月21日（土）～3月31日（火）

アートからのアプローチで、写真を通して信楽という「陶芸のまち」の魅力を紹介する

（9）博物館実習

＜実施期間＞ 2019年8月中の4日間

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで、関西圏を中心に21大学・122名を実習生として受け入れてきた。展覧会と普及啓発についての講義、また作品の取り扱いと梱包や調書の作成など、実物資料を扱う実技演習をおこなう。

（10）カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売する。

（11）展覧会監視警備

展覧会開催期間中の火災や盗難、事故等を防止するとともに、施設物品の保全、展覧会業務の円滑な運営を図るための人的監視業務、魅力的な美術館づくりのためにミュージアムショップの物品販売業務を行う。

2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業（AIR事業））

2019年度については、国内外からスタジオ・アーティストの受入をおこなうほか、ゲスト・アーティストの招聘等をおこなっていくことで、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活性化させる。また、陶芸の森の訪問者やスタジオ・アーティスト等を信楽在住の陶芸家やメーカーへの工房見学を積極的に行うことで信楽焼の担い手たちとの交流を活性化させる。

その観点から「創作研修館オープン・スタジオ」を強化し、交流の機会を増やすことで、信楽焼の振興に務める。また、国内外の類似機関との連携を強化し、陶芸家の派遣も含めた仕組みを文化庁「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」補助金を活用して継続実施していく。

また、レジデンス事業のアーカイブとして情報閲覧室を活用し、やきもの相談員制度とあわせて技術

面でのサポートの充実に努める。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ

例年と同様に40名程度を受け入れる。2019年度は、スタジオ・アーティストの作品制作がよりスムーズに進むように、技術面でのサポート体制を維持し、また、陶芸の森の訪問者やスタジオ・アーティスト等を連れて、信楽町内に在住する陶芸家やメーカーの工房見学を積極的におこなうことで、信楽焼の担い手たちとの相互交流を活性化させる。

(2) ゲスト・アーティストの招聘（文化庁補助事業枠含む）

2019年度は、12名のゲスト・アーティストを招へいする。うち5人はAIR事業枠、2人は文化庁補助事業枠、5人は文化庁補助事業交換プログラム枠。また、文化庁補助金による、海外レジデンス機関との交換プログラムについては、当方からも5人の陶芸家を派遣する。

さらに、11年目を迎えたゲスト・アーティストの公募を例年のとおりおこない、12月には選考委員会を開催し、優秀な作家の選考に努める。

(前年度から継続)

金 理有

若杉 聖子

新里 明士

Pornphun Sutthiprapha Aor

(新規)

AIR 事業枠①2019年4月2日～6月30日	Elliott Kayser (アメリカ)
AIR 事業枠②2019年4月10日～6月8日	フタムラ・ヨシミ (フランス)
AIR 事業枠③2019年7月20日～8月31日	秋永邦洋 (兵庫県)
AIR 事業枠④2019年11月5日～12月20日	Valentina Bero (ウクライナ)
AIR 事業枠⑤2019年11月7日～1月25日	鈴木秀昭 (静岡県)
文化庁事業枠①2019年7月20日～8月31日	竹内真吾 (愛知県瀬戸市)
文化庁事業枠②2020年1月4日～3月31日	米谷 健 (京都府)
文化庁交換プログラム受入者①	文化庁補助金の採択決定後に調整
文化庁交換プログラム受入者②	文化庁補助金の採択決定後に調整
文化庁交換プログラム受入者③	文化庁補助金の採択決定後に調整
文化庁交換プログラム受入者④	文化庁補助金の採択決定後に調整
文化庁交換プログラム受入者⑤	文化庁補助金の採択決定後に調整

招へい者概要

陶芸の森 AIR プログラム枠	5人
文化庁補助事業枠	7人
うち招へい枠	国内2人
うち交換プログラム枠	海外5人

合計 12人

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

地域産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、スタジオを公開し、滞在作家や職員によるレクチャーやワークショップをおこなって一般の来園者、産地後継者とアーティストの交流を図っていく。また、陶芸研究者による講演会等を開催し、「陶芸に関する考え方」の知識をレジデンス関係者や地域の陶芸関係者に教授する機会を設け、レベルアップのきっかけづくりとする。また、アーティスト・イン・レジデンス事業についてのメーリングリストを開設し、情報の拡散に努めるとともにスタジオ内の日々の様子なども公開していく。

- (1) オープン・スタジオ1 2019年4月20日 (土)
- (2) オープン・スタジオ2 2019年5月19日 (日)
- (3) オープン・スタジオ3 2019年7月7日 (日)
- (4) オープン・スタジオ4 2019年8月4日 (日)
- (5) オープン・スタジオ5 2019年10月20日 (日)
- (6) オープン・スタジオ6 2019年11月3日 (日)
- (7) オープン・スタジオ7 2020年3月8日 (日)

(4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー、FUJIKIを基点とした情報発信、活性化

陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー及び、陶芸の森が町内への情報発信拠点として設置するFUJIKIを基点にアーティスト・イン・レジデンス事業の一層の情報発信、活性化を図る。上記のギャラリーを基点として滞在する作家の展覧会活動を積極的におこない、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、レジデンス事業の情報発信に努める。またFB等のSNSを有効活用し、展覧会情報等の広報を積極的に行う。

(5) 国内外の機関との連携

ア. 海外の機関との連携

平成28年度から、文化庁の「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業」の補助金を受け海外のレジデンス機関5か所と連携して交換プログラムを行っているが、この交流プログラムをさらに活性化させて、陶芸分野での国際的なレジデンス施設や国際的な陶芸の団体などのネットワークの拠点としての機能をステップアップさせ、海外のレジデンス等への陶芸家の派遣と、海外の陶芸関係機関からの陶芸家の受入を強化し、双方向の交流を活性化させる。(文化庁補助事業2019-1)

また、海外の公的機関との連携強化による人的交流の活性化策として、平成30年度に引き続いて、フィンランド文化センター、台湾文化センターと共同で陶芸家の受け入れをおこなう他、新たに中華人民共和国から同様のプログラムを組み連携を強化する。

イ. 国内の機関との連携

平成30年度に引き続き、文化庁の「アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業「AIR 活動の連携促進プログラム」補助金を活用して、国内の陶芸、工芸関係のレジデンス機関と研究会と招へい作家によるトークショーを開催し、連携を深めるとともにレジデンス事業の運営について、議論する。(文化庁補助事業2019-2)

- ・事業の目的趣旨

「専門的人材の育成」及び「情報共有機会」

- ・事業内容

- (ア) 研究会の開催

実施内容：国内のレジデンス機関とのレジデンスの運営にかかる研究会の開催。平成30年度に議論した課題への解決策、レジデンスの運営方法のマニュアル、今後の連携強化等について議論をすすめる。

会 場：益子陶芸美術館 (予定)

参加機関：滋賀県立陶芸の森(滋賀県甲賀市)、京都芸術センター(京都府京都市)、瀬戸市新世紀工芸館(愛知県瀬戸市)、益子国際工芸交流館(栃木県益子町)、

- (イ) トークショーの開催

実施内容：各レジデンス機関で滞在しているアーティストによるトークショーの開催。陶芸関係のレジデンスである3機関でそれぞれのレジデンスに参加しているアーティ

ストを相互に派遣して、トークショーを開催し、それぞれのレジデンス機関の紹介、参加アーティストの交流を図る。

会 場：益子陶芸美術館（予定）

参加機関：滋賀県立陶芸の森(滋賀県甲賀市)、瀬戸市新世紀工芸館(愛知県瀬戸市)、益子国際工芸交流館(栃木県益子町)

3. 「つつっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的におこなう。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげる。

また、アール・ブリュットとして評価をされている障がいを持つ人々の芸術の素晴らしさは、滋賀県では陶芸作品から最初に見出されてきたことから、当館ではさらにその魅力を広く展示などで発信する機会を設けるとともに、その土の造形を造り出すきっかけを増やすという観点から、「世界にひとつの宝物づくり事業」とともに、子どもたちや障がいを持つ人の造形活動を支援していきたい。

(1) 「本物と出合うー総合的学習プログラム事業」と宝物事業との連携

年々、本事業への参加校は増えてきており、陶芸や陶芸の森の素晴らしさを広めるために、学校へ出張授業や児童・生徒が来園して作陶する来園プログラムを継続し、さらに美術館事業として内容を吟味しながら、新規プログラムの企画を進めていく。

- 連携授業の新規プログラムの企画など
- 連携授業の講師養成事業
- 学校からの来園プログラム
- 陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催
- ねんどと遊ぶ事業

第3 産業の振興に関する事業

信楽焼の伝統技術を将来に継承する人材育成事業およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示等により信楽陶器産業の振興を図って行く。

人材育成事業として、昨年同様信楽高等学校の支援事業をおこなう。また、「対話の森」として、当館館長をホスト役に、信楽焼の産業後継者等を対象として、時代の先端で、ヒト、モノ、考え方などをプロデュースされている方々によるトークショーを開催することにより地域産業の振興を図る。

また、信楽産業展示館を活用し、2018年度に制作した製品を信楽陶器総合展の際に展示紹介することで地元業界へデザインの提案を行う。また、新たにデザインコンペとして、陶芸館ミュージアムショップのがちやがちの商品開発を目的に、作品の公募をおこないデザインの啓発の一環とする。

1. 信楽産業展示館の活用

(1) 信楽産業展示館での展示

昨年度のデザイン活性化事業で制作した製品を信楽陶器総合展の際に展示紹介することで地元業界へデザインの提案を行う。

2. 人材育成事業

(1) 信楽高等学校への支援事業

平成30年度に引き続き、再編中の信楽高等学校の各学年に対し下記の5項目について、授業を陶芸の森でおこなう。このことで、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携しおこない、地域での人材育成に努める。

ア. 信楽高等学校デザイン科外部研修受入れ

＜実施期間＞2019年9月頃

＜対 象＞3年生30人

伝統的な陶産地である信楽焼の将来の担い手を育成するために、信楽焼伝統工芸士によるやきものへの絵付け実習を、信楽高等学校デザイン科生徒を対象におこなう。

完成した製品については、甲賀市または県の公共施設への設置をおこない、信楽高等学校の活動と信楽焼のPRにつなげる。

イ. 野焼き体験実習

＜実施期間＞2019年11月（焼成 3時間×1日）

＜対 象＞1年生80人

原始時代の土器などについて陶芸史の中で学んだことを実践させる。制作作業は、信楽高等学校でおこない、乾燥した縄文式土器や弥生式土器をモデルにつくられた作品を陶芸の森へ搬入後、窯の広場にて野焼きをおこなう。

ウ. 茶道、陶芸体験などの実施

＜実施期間＞2019年10月

＜対 象＞1年生80人

信楽在住の若手作家と陶芸の森による茶会、陶芸作家によるレクチャー、ワークショップを実施し、作家が作品をつくるまでの思考プロセスの理解を進める。

エ. 作家指導によるやきものの制作

＜実施期間＞2019年9月～10月の間の平日

＜対 象＞2年生30人

伝統的な登り窯で焼成する作品を信楽の作家、スタジオ・アーティストを講師として派遣し、制作する。作家の指導を受けることで、質の高い作品作りを目指す。

オ. 登り窯焼成実習

＜実施期間＞2019年12月

＜対 象＞2年生30人

登り窯の焼成実習および釉薬による表現の追求、登り窯、信楽焼についての講義、窯焚きの実際の体験を通して登り窯焼成、信楽焼への理解を深める。

(2) 「対話の森」

「信楽(焼)の持っている魅力の再発見」と題して時代の先端でヒト、モノ、考え方などをプロデュースされている方々によるトークショーを当館の松井館長をホスト役に4回程度開催する。

平成30年度に引き続き、「伝統産業」や「デザイン開発」、「PR」などの分野の最先端で活動する方々を招き、普段お考えになっているコトや、ご自身が信楽について考えていることを語っていただき、また参加者の方々と意見交換する機会を設けることで地域産業の振興に寄与する。また、信楽焼の現状から何が生み出せるか、議論を深める。

3. 「デザインコンペ がちゃがちゃ」【新規】

陶芸館ミュージアムショップのがちゃがちゃの商品開発を目的に、作品の公募をおこなう。

デザインの優れたモデルについては、陶芸の森がまとまった数を商品として購入し、2020年度から陶芸の森30周年を記念してミュージアムショップのがちゃがちゃで販売する。入選モデルについては、信楽産業展示館にて展示することでデザインの啓発の一環とする。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開する。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。また、併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

2. その他

(1) 自動販売機の設置

来園者が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供する。

第5 信楽焼おもてなし発信プロジェクト【新規】

信楽を舞台とした女性陶芸家を主人公に描かれるNHK連続テレビ小説「スカーレット」の決定に際し、信楽焼を代表する女性陶芸家の一人である神山清子氏の作品などを通して、信楽焼の魅力を多くの方々に知っていただくため、さまざまな企画を準備し、陶芸の森への誘客、さらには陶器産業の発展につなげていく。

《信楽焼の魅力発見・発信事業》（滋賀県から公益財団法人滋賀県陶芸の森へ委託）

神山清子氏の作品や、神山氏が作品制作に用いている薪窯について紹介し、ドラマ放映をきっかけに観光に訪れた方とともに信楽焼や信楽地域の魅力を、より多くの方々に知っていただく。

1. 写真展1：神山清子の信楽焼～お茶、お花とともに（会場：FUJIKI）

陶芸の森の所蔵品を茶や華道、フラワーアレンジメントで飾り、その作品の写真展示を行って、信楽焼の魅力を発信する。

2. 写真展2：Shigaraki×Photograph vo.1～写真が迫る信楽の魅力（会場：FUJIKI）

アートからのアプローチで、写真を通して信楽という「陶芸のまち」の魅力を紹介する。

3. 神山清子作品、プロフィール展示（会場：陶芸の森陶芸館ロビー）

常設で神山清子氏の作品を展示し紹介する。展示ブース風に、仮設の壁面にプロフィール等もあわせて紹介する。

4. 信楽焼・薪窯の魅力発見！講演会や対談の開催

神山清子氏が作品制作に用いている薪窯の魅力を探る講演会や信楽焼の魅力をテーマにした地元陶芸家等の対談を開催する。